

第22回

# 地域の防火防災功労賞 事例集



令和8年1月

主催 東京消防庁

共催

公益財団法人 東京防災救急協会  
公益財団法人 東京連合防火協会

## 最優秀賞

隅西災害時サポート隊（墨田区）

女子力高めなサポート隊 ～「アイテムはスタンドパイプ」～ ..... 1

リムザ自治会（府中市）

安心の輪を地域へ広げる！ ～先進的なマンション防災で地域貢献を続けるリムザ自治会～ ..... 2

ブリリア多摩センター管理組合（多摩市）

ハードとソフトの両輪で取組むマンション防災 ..... 3

## 優秀賞

専修大学学生部（千代田区）

防災イベントで「生き抜く力」を養い・広める取り組み ..... 4

日本橋二の部地区委員会（中央区）

いつまでも「子供と歴史」を大切に みんなで守れ日本の中心 ..... 5

坂下一丁目南町会（板橋区）

手作り防災バイクが地域を守る、坂下一丁目南町会 ..... 6

葛飾区立常盤中学校（葛飾区）

さがける・学校総合防災教育 ～防災エリートはここから生まれる！ 常盤中学校の止まらぬ挑戦～ ..... 7

## 優良賞

お台場学園防災Jrチーム（港区）

お台場の街は僕たち、私たちが守る ～後輩たちに受け継がれる防災の志～ ..... 8

今泉自治会（大田区）

実戦的な訓練と地域連携で備える防災力 ～消防団のノウハウを活かした自治会防災～ ..... 9

駒澤大学 内海麻利ゼミナール（世田谷区）

進化系防災訓練「防災コミュニティラボ」～地域の人たちと進化する防災訓練～ ..... 10

小竹町会（練馬区）

地域×学校×消防団 ～若い世代が参加する防災訓練を目指して～ ..... 11

新田地区少年団体協議会（足立区）

新たな地域防災力の担い手を育成するために！ ～地域と行政を繋ぐ取り組み～ ..... 12

葛飾区立小松南小学校（葛飾区）

葛飾区は僕たち・私たちが守る、教えるのは6年生！ ～教えることで学ぶ総合防災教育への新たな取り組み～ ..... 13

国立市自主防災組織連絡協議会（国立市）

自主防災組織連絡協議会の先駆け！ 22年にわたる歩み ..... 14

西府文化センター圏域自主防災連絡会（府中市）

地域連携で防災の未来を描く！ ～西府の住民による、西府の住民のための、西府の防火防災訓練～ ..... 15

深大寺自衛消防隊（調布市）

地域の防火防災力向上は地元のチカラで ～誰もが安心して訪れることができる深大寺地域を目指して～ ..... 16

前沢四丁目自治会自主防災会（東久留米市）

要配慮者への配慮を込めた地域防災力の向上策 ..... 17

## 選考委員長特別賞

特定非営利活動法人アディアベバ・エチオピア協会（葛飾区）

防災訓練を区や地域の架け橋のアイテムに！ ..... 18

青梅女性防火防災の会（青梅市）

女性の力で発信！ 熱意と努力で地域の防災力向上を ..... 19

## 第22回 地域の防火防災功労賞概要

### 概要

「地域の防火防災功労賞」は、阪神・淡路大震災から10年目の節目にあたる平成16年6月に、地域防災力の向上を図ることを目的として創設されました。町会・自治会、事業所等の防火防災に関する取組について募集し、表彰することで広く都民に紹介するものです。

今年も、地震災害、風水害等の自然災害に関する町会・自治会等が主体となった地域の取組や、地域が実施する住宅防火に関する取組を募集しました。

### 選考委員会構成

梶 秀樹	委員長	(筑波大学 名誉教授)
関澤 愛	委員	(NPO法人 日本防火技術者協会 理事長)
池上 三喜子	委員	(公益財団法人 市民防災研究所 理事)
伊村 則子	委員	(武蔵野大学 教授)
松本 浩司	委員	(NHK解説委員室 解説主幹)
山本 豊	委員	(公益財団法人 東京防災救急協会 副理事長)
水野 寿	委員	(公益財団法人 東京連合防火協会 専務理事)
久貝 壽之	委員	(東京消防庁 防災部長)

### 募集テーマ(令和7年度)

地震、風水害等の自然災害、住宅防火に関する町会・自治会等の地域主体の取組全般を対象とします。具体的な取組例は次のとおりです。

- 1 防災行動力の向上に関する取組
- 2 震災対策に関する取組
- 3 総合防災教育に関する取組
- 4 災害時要援護者の安全対策に関する取組
- 5 住宅防火対策や放火対策に関する取組
- 6 防災情報の収集・伝達体制の整備に関する取組
- 7 その他の取組

### 募集対象

- 1 自主防災組織(町会、自治会等)
- 2 ボランティア団体等(PTA、NPO法人を含む)
- 3 事業所(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関を含む)
- 4 その他の団体



# 女子力高めなサポート隊

## ～「アイテムはスタンドパイプ」～

### 最優秀賞

### 隅西災害時サポート隊（墨田区）

#### 【経 緯】

隅西災害時サポート隊が拠点とする墨田三丁目地域は、戦前からの古い木造住宅が密集し狭隘道路も多く残る街区構成で、総合危険度は常に上位の指定を受けている。

地域の繋がりが希薄になる昨今、木造密集・道路狭隘さらには居住者の多くが高齢者であり、災害時の危険度が極めて高い環境から「昼夜を問わず地域にいる機会の多い女性たちで、一人も見逃さずに仲間を守ろう！」という意識の高まりにより、平成20年8月、隅田西町会の女性たちによる「隅西災害時サポート隊」としてのチームが結成された。

#### 【活動内容】

- 1 最短時間での安否確認実現に向け、要配慮者・一人暮らし・高齢者世帯等を色分けし、さらに危険個所情報等が入った防災マップを独自に作成し定期的に会議を開催しながら更新を実施している。
- 2 老人会の映画上映会や誕生日会、サークル活動に出向き、防災講話の実施や支援を必要とする人の相談に乗り精神的な支援を行う等、直接高齢者と接触することによって町内に住む要配慮者情報の更新に努めている。
- 3 災害時における要配慮者の救出救助活動に備え、定期的に装備の点検、訓練に励み常にスキルアップを目指している。
- 4 建物の崩壊、火災の燃え広がりなど実火災を想定してスタンドパイプを活用した初期消火訓練（訓練



スタンドパイプを活用した防災訓練

場所を町内の狭隘道路、野次馬や障害物設置等様々な負荷を課し、訓練中の意思疎通はジェスチャーのみとする等）を実施している。また、訓練の成果を毎年、消防署主催で開催される防災コンテストで発揮し、常に上位入賞の実績を積んでいる。



日頃の訓練成果を披露した防災コンテスト

- 5 防災の知恵や危機意識を地域全体に広げることを目的に、近隣の中学生にスタンドパイプの操作方法等の指導を実施している。
- 6 町内の一斉メールに反応した訓練を実施しながら現実的なチームを作り、街のピンチを救うことにつなげている。
- 7 町内広報紙による防災情報の発信を行い、町内全体を捉えて防災意識の向上に努めている。
- 8 サポート隊メンバーが、転居した先の近隣の町会において隅西災害時サポート隊の活動を紹介しながら活動を開始する等、町会内に留まらず地域全体においても防災行動力の向上に努めている。

# 安心の輪を地域へ広げる！

## ～先進的なマンション防災で地域貢献を続けるリムザ自治会～

### 最優秀賞

### リムザ自治会（府中市）

#### 【経 緯】

リムザ自治会は平成20年に結成され、553世帯、約2,000人の方が居住し、全世帯の約95%が自治会に加入する大規模マンションである。リムザでは、平成23年4月に自治会防災計画の大綱を策定、翌24年4月にリムザ防災委員会の設立による防災組織を構築後、避難計画に基づく具体的な想定の日災訓練を年1回以上行うなど、来る大規模災害に備え、リムザ防災の体制整備を進めている。令和元年の台風19号による豪雨の際には、多摩川の氾濫危険による避難勧告（当時）が発令され、要援護者を含めた未避難者への避難支援や重要施設の水損防止を行うなど、防災活動の成果が発揮された。リムザでは約10年前から「真に実効的な防災対応策」の構築に向けた検討を進め、その集大成として、令和6年度に災害初期対応の手順をまとめたFMB（First Mission Box/ファースト・ミッション・ボックス：非常時に誰でも対処できるように、必要な動作等を細分化した指示書）基本案策定など、リムザ防災の発展を遂げている。また、多様な世代や防災に対する無関心層の防災活動への参加促進のため、子供たちが楽しめる企画を用意しながら、地域コミュニティを育むイベントのほか、都県を跨いだマンション防災の有識者を招いた情報共有を行い先進的なリムザ防災の活動を広めている。



FMB（ファースト・ミッション・ボックス）

#### 【活動内容】

##### 1 FMB基本案の策定と実践的な防災訓練

これまでに「安否確認マグネット」の全戸への配布、連絡用の無線機やインターホンの一斉連絡シス

テムの活用などによる避難・安否申告訓練を行っている。また、令和6年度には、FMB基本案を策定し、約160名が参加した運用訓練を行うなど、マンション防災を発展的に取組んでいる。



FMBに基づいた班活動

##### 2 住民間の活発な交流と共助の精神

住民交流イベント「リムザフェスタ」や様々なサークル活動をはじめ、救命講習等の開催を通じて、住民間のコミュニティ形成を重視した取組みにより、災害時におけるスムーズな情報伝達や助け合いの体制を築くとともに、大人から子供までが楽しみながら防災に触れる機会を設けている。

##### 3 地域との強固な連携

地域の町会自治会や関係機関と積極的に連携し、約300人が参加した府中市水防訓練や約1,000人が参加した府中市総合防災訓練等の地域行事への参加を通じて、地域社会全体での防災力向上を目指している。

##### 4 積極的な情報発信と啓発活動

実践してきた「マンション防災」のノウハウを都県を跨いだマンション防災の有識者を招いた情報共有を行い、先進的なリムザ防災の活動を広めるなど、地域社会全体の防災意識を高める活動を積極的に行っている。



# ハードとソフトの両輪で取組むマンション防災

## 最優秀賞

## ブリリア多摩センター管理組合（多摩市）

### 【経緯】

ブリリア多摩センター（平成19年3月竣工）では総住戸530世帯の大規模集合マンションであることを利点に、マンションコミュニティ全体で連携して災害時に助け合える「共助」に取り組んできた。さらに理事会の下部組織として自主防災管理委員会を形成し、月1回のペースで会議等の活動を行っている。委員会には、マンション内の防火管理技能資格者が参加し、また、阪神・淡路大震災で被災した経験を持つメンバーも参加している。

管理組合発足直後から、管理会社協力のもと、住民からの管理組合費等を活用し、ハード面の防災対策に取り組んできた。令和2年10月頃から災害時の地下ピット受水槽の有効活用を検討し、令和3年5月に停電時にも飲み水を確保できるよう給水ポンプの設置を実現した。給水ポンプの設置に伴い、保管場所を検討していく中で、令和4年5月に建築基準法の範囲内で駐輪場の一角に物置型の防災備蓄倉庫を設置した。ここには給水ポンプだけでなく、保存食・飲料水等を備蓄し、救援物資が届くまでの一助になるよう継続して備蓄品の見直しを行ってきた。

また、ハード面を有効活用するにはソフト面の充実化も必要であるとの意見もあり、令和5年に自主防災管理委員会で災害時の対応マニュアルを策定し、マニュアルや防災訓練等の見直しを図りながら、ソフト面の充実化も図っている。

### 【活動内容】

#### 1 防災訓練

組合設立以来毎年、自主防災管理委員会が主体となり、消防署、多摩市防災安全課、多摩市消防団に協力を得ながら、119番通報訓練と各棟に設けた拡声器での一斉通報避難訓練、敷地の中庭を活用した水消火器での消火訓練、各住戸を隔てるバルコニーの隔壁板の破壊訓練、煙を充満させた共用部からの脱出体験訓練、各住戸の玄関ドアに避難状況等を掲示するマグネットを貼る安否確認訓練等で構成した防災訓練を実施している。なお、訓練内容に関しては毎年検討し、ブラッシュアップし現在に至っている。



隔壁板破壊訓練

#### 2 災害サバイバルキャンプ

令和6年には新たな試みとして、水道・ガス・電気が使えない在宅避難生活を想定し、受水槽からの水汲みと運搬リレー、マンホールトイレの組み立て、凝固剤を使った簡易トイレの使用、ポリ袋での炊飯の4つのイベントで構成した災害サバイバルキャンプ実施し、多数のファミリー層が参加した。

#### 3 応急救護訓練

令和6年には身近な命を守る必要な知識を学ぶ「応急救護訓練・AED講習会」を実施した。

#### 4 「災害時の対応マニュアル」の策定と見直し

自主防災管理委員会が独自に作成した「災害時の対応マニュアル」をもとに、定期的に防災訓練を行い、実施後、課題を洗い出して見直しを行っている。また、マニュアルの精度を上げるため、管理会社より提案された「Brillia防災ゲーム」で地震時の様々な疑似トラブルを体験し、非常時に係るフローをブラッシュアップした。



「Brillia防災ゲーム」による災害疑似体験図上演習

# 防災イベントで「生き抜く力」を養い・広める取り組み

## 優秀賞

## 専修大学学生部（千代田区）

### 【経 緯】

専修大学は平成17年より千代田区と大規模災害時における協力基本協定を締結している。今後30年以内に70%の確率で予想される首都直下地震の懸念が残る今日、いざと言う時に慌てず、各自が自分の身を守る知識と技術の習得の場となるよう参加型防災イベントを開催している。

また本学では有事の際、大学と共に行動できる学生防災ボランティア団体専修神田ボランティア（SKV）を2010年11月から大学組織下に置き、「災害に対する備え」に取り組んでいる。

### 【活動内容】

#### 1 防災体験イベント（BOSAIフェア）の開催

2011年の東日本大震災からまる3年が経過した3月、風化させずに改めて災害に対する備えを自分事として捉える意識の定着のため実施を計画した。昨年（2024年）6月で12回目となった本イベントでは、区、消防署、消防団等と連携し、学生の防災力向上や近隣町会との結びつきの強化を目的としている。学生や教職員、地域住民が参加し、各種の防災体験を通じて自助・共助の重要性を学ぶ機会を提供している。毎年100名以上、累計で1,300名以上の方が参加し継続的な訓練の積み重ねにより、災害時における迅速な対応や支援が可能となる。本イベントは、地域との繋がりを強めるとともに防災力の向上に非常に重要な役割を担っている。



BOSAIフェアでの炊き出しの様子

#### 2 災害救援ボランティアの養成

千代田区の昼間人口は夜間人口の約17倍と言われ

ている。大規模災害に備え、2010年から年間2回の「災害救援ボランティア講座」を開講し、通算28回の講座修了生は2025年3月時点で1,070名に及ぶ。これは、大学内の講座開講数並びに修了生第1位を誇る。本講座には講義、実技、演習が含まれ、災害と防災対策についての基礎知識や上級救命講習、被災地でのボランティア活動を想定した討議などが行われる。修了生は、自分の身を守る技術と知識に加え、ボランティア参加に向けての知識と心構えを身に着けることができ、東日本大震災や千葉県豪雨災害、能登地震等においてもマンパワーを発揮している。

#### 3 学生防災団体「専修神田ボランティア（SKV）」の育成

SKVは、災害救援ボランティア講座受講生の有志により、神田キャンパスにおいて、継続した学習・技術復習のために2010年11月に結成された大学組織下の学生防災団体で、累計145名が所属している。「防災・救命」と「地域貢献」を軸に活動し、毎年「救命講習会」で、一般学生へ心肺蘇生や包帯法を伝えている。また、有事の際には近隣住民との協力が必要となることから、「顔の見える関係」作りに月1清掃活動の実施、地域のイベントに出向き一般の方へ向けて、体験講習を開く活動を通して「生き抜く力」を広めており地域住民との良好な関係を構築している。



すずらん祭りでのSKVの活動



# いつまでも「子供と歴史」を大切に みんなで守れ日本の中心

## 優秀賞

## 日本橋二の部地区委員会（中央区）

### 【経 緯】

昭和46年、日本橋二の部地区委員会の主導により、同地区で最初の防火防災訓練を実施して以降、翌47年からは更なる防火防災意識の高揚を図るため、同地区内の各事業所に積極的に働きかけを6年間継続した結果、昭和52年に地域住民と近隣事業所が連携した防火防災訓練の実施を達成し、地域防災力の向上に尽力した団体である。現在は、更に若い親子世代もターゲットにして、「親子で取り組む防火防災訓練・防災教育」をスローガンに、毎年地域特性を考慮しながら訓練参加者数の増加、効果的な訓練による防災力の向上に尽力している組織である。

### 【活動内容】

#### 1 防災拠点での防火防災訓練の実施

- (1) 平成18年から毎年、防災拠点である「十思スクエア（中央区日本橋小伝馬町5-1）」において、防火防災訓練を実施し、居住人口が少ない中、令和6年度は200名以上も参加し好評であった。
- (2) 実施にあたり、各パート訓練を役員のみで事前に実施する「役員訓練」と、住民を交えて当日実施する「住民訓練」に分けるなど地域特性に配慮し、基礎的な訓練として119番通報、初期消火訓練、応急救護訓練、炊出し訓練のほか、エアージャッキを活用した実動救助訓練、新聞紙を活用した防災スリッパ作り、避難所受付訓練、そしてペット同行ルール（独自ルール）に基づいた避難訓練及びルールに基づいた受付訓練を実施した。

#### 2 まちぐるみの総合防火防災訓練

- (1) 昭和48年から、同地区内の町会、事業所等が参加して実施している総合連携訓練で、第52回目（令和6年度）では、前1の防災拠点訓練時の2倍（400名以上）が参加した。
- (2) 現在、63団体（12町会、51事業所）が参加する歴史の長い大規模防火防災訓練で、事業所参加のため、平日の業務時間帯内で訓練を開催している。



51事業所による避難・応急救護訓練

#### 3 親子をターゲットにした防火防災訓練・教育

- (1) 平成25年から、親子をターゲットにした防火防災訓練を推進し、令和6年度は370名もの参加者があり、若い世代の防災力の向上に結び付けるなど、将来を見据えた取り組みを推進している。
- (2) 親子が興味を惹くような体験型アトラクションを事前リサーチし、「薪割り火おこし体験」「スウェーデントーチ取扱体験」「かまどベンチ設営体験」などで疑似キャンプ体験ができる防火防災訓練について、毎年、趣向を凝らしながら推進した結果、家族参加者数が年々増加しており、成果をあげている。



大勢の家族参加で賑わった初期消火訓練



# 手作り防災バイクが地域を守る、坂下一丁目南町会

## 優秀賞

## 坂下一丁目南町会（板橋区）

### 【経 緯】

昭和42年、町名地番整理に伴い志村親和町会から分かれて、新たに「坂下一丁目南町会」として発足した。都営三田線志村三丁目駅に近く、環状八号線に沿った位置にある。町会発足当初から町会の目標に「災害に強いまちづくりのための、実効性の高い防災訓練」を掲げており、50歳代の防災リーダーが軸となり、町会の各種事業を積極的に行っている。

### 【活動内容】

#### 1 防災リーダーの育成

板橋区が住民防災組織の活性化及び防災活動の中核となる人材を育成するための「区民防災講習」を行っており、受講者を防災リーダーとして認定している。当町会では、町会員に計画的に講習を受講させており、現在33名が防災リーダーの認定を受け、防災リーダーたちが中心となって町会の防災訓練を企画・運営している。

#### 2 手作り防災バイクの製作

板橋区から各住民防災組織に初期消火用資器材として「D級ポンプ」と「スタンドパイプ」が配置されている。本町会の防災リーダーの間では、実災害や各種訓練等に使用するにあたり、リヤカーにポンプ本体と必要資器材を積載することにかかる時間と積載漏れが発生することが、長年の懸案事項となっていた。

令和3年、搬送手段等の問題点を改善するため、「手作り防災バイク」の製作に取り組んだ。バイクを購入し、バイク後部荷台にポンプ本体等の消火活動に必要な資器材をすべて積載できるように、自分たちで溶接等の作業を行い「手作り防災バイク」を完成させた。この結果、リヤカーに資器材を積載するのに要していた時間の短縮と積載漏れをすることもなくなり、大きな改善へとつながった。



手作り防災バイク

この防災バイクは、板橋区消防団合同点検での消防演習への参加や、板橋区総合防災訓練及び後述のトレイン祭りに伴う訓練での活用など、平素から大活躍している。

#### 3 トレイン祭りに伴う防災訓練

2025年で27回目をむかえた「トレイン祭り」は、当町会の役員・町会員はもとより、おやじの会、近隣町会及び地元中学校の吹奏楽部が連携して開催をしている。毎年5,000人以上の参加がある歴史あるお祭りである。

このトレイン祭りの目玉の一つであるバンパーボートは、大きな水槽に舟を浮かべるため、お祭りの当日早朝に、防災リーダーを含む町会役員約50名がスタンドパイプを活用した水槽への充水と、水槽に防災バイクを部署させ、積載されたD級ポンプにより吸水し、水槽内継続して放水する訓練を行っている。人が集まる行事の準備段階を有効に活用した効率的かつ効果的な取り組みで地域防災力の向上を図っている。



D級ポンプ・スタンドパイプ積載状況



放水訓練

#### 4 子供たちの育成等

「トレイン祭り」や「盆踊り大会」には多くの子供たちが参加しているほか、町会の子供たちを中心とした「おはやしの会」を約20年前から結成し、1月の「成人式・二十歳のつどい」参加や、区内16の老人ホームを訪れ、子供たちが獅子舞を演じるなど、多くの子供たちがイベントに参加する環境ができていることに加え、その保護者たちも多く参加している。町会をけん引する大人や防災リーダーの後ろ姿を見て育つことで、未来の町会の中心役や防災リーダーの育成に繋がっている。

# さがける・学校総合防災教育

## ～防災エリートはここから生まれる！ 常盤中学校の止まらぬ挑戦～

### 優秀賞

### 葛飾区立常盤中学校（葛飾区）

#### 【経緯】

平成23年に発生した東日本大震災を契機として、葛飾区立常盤中学校は、防災教育を通じて生徒と保護者をはじめとした地域住民の防災意識を高め、地域全体の防災力を高める取り組みを行ってきました。平成24年から開始されたこの総合防災教育は、毎年秋の「葛飾教育の日（学校の一般公開日）」に合わせて実施されており、今年で13年目を迎えます（令和2・3年はコロナウィルス感染拡大防止の観点から中止）

また、この取り組みは、町会、PTA、葛飾区及び金町消防署と連携して進められており、生徒達の防災力向上を達成するだけでなく、保護者には家庭の備えを見直すきっかけを与え、各関係機関にとっても相互の連携体制を確認・強化する機会を提供しています。

常盤中学校の防災教育は地域に根差した継続的な取り組みとして定着しており、今なお改善を重ね、内容も進化し続けています。

#### 【活動内容】

#### 1 “助けられる側” から “助ける側” の立場へ成長を促すための防災カリキュラム

日中に災害が起きた場合、地域内にいる中学生は、共助の主役になることから、中学3年間で、自ら進んで防災活動ができる力を段階的に学ぶことができるようにカリキュラム（16種目）を工夫しています。

##### (1) 中学1年生 「防災の基本と災害時の学校の役割を学ぶ」

災害時、区立中学校は被災した地域住民が一定期間生活をする避難所として開設されることから、避難所の役割、避難所の設定要領等、自分たちが避難所でできることを学びます。

また、初期消火要領、災害時の連絡手段等も学び、初期消火の重要性や連絡手段について事前に家族で共通認識を持つ必要性など、実践を通して学びます。



応急給水訓練

##### (2) 中学2年生 「応急救護について学ぶ」

災害時だけではなく、平時でも応急救護の知識を生かしてもらえるよう傷病者の発見、声かけ、周囲へ協力の呼びかけ、胸骨圧迫、AED、搬送までの一連の流れを学習します。

特に応急救護訓練は、中学3年間で段階的に学ぶカリキュラムである特性を生かし、一つひとつの項目を丁寧に学ぶことができるよう配慮しています。

##### (3) 中学3年生 「災害時に自分たちが人のためにできることを学ぶ」

避難所の備蓄品を使用した炊き出し訓練、マンホールトイレ及び非常用照明の組立訓練、救助訓練など地域の一員として災害時に行動できる生徒を育成します。また、教員が作成した防災カードゲームを使用して災害対応に必要な行動や考え方を楽しみながら学び、自分たちで問題を解決する能力を養っています。

#### 2 指導体制

本総合防災教育の特徴は、区や消防署だけが指導者となるのではなく、教師、町会、PTA及び消防団が中心となって生徒と連携し、学校と地域が一体となって、双方向にコミュニケーションを取りながら訓練を進めることで、災害時の円滑な防災活動に備えているところにあります。

また、「葛飾教育の日」に訓練を行い、来校した保護者に生徒の訓練の様子を直接見せることにより、家庭内でどのように防災に取り組むかを考えるきっかけを与え、防災教育の家庭内への波及効果を創出しています。



避難所開設訓練



# お台場の街は僕たち、私たちが守る

## ～後輩たちに受け継がれる防災の志～

### 優良賞

### お台場学園防災Jrチーム（港区）

#### 【経 緯】

台場地区は、お台場海浜公園に沿って商業施設やエンターテインメント施設が多数存在し、観光客に人気のスポットである。地区内には高層マンションが林立しているが、居住者の多くは地域外の職場で働いており、平日の昼間に災害が発生し、交通インフラが遮断された際には、観光客等の帰宅困難者や、地域の子供とお年寄りが多数孤立することが懸念されている。

こうした地域に、平成20年4月、防災の担い手として、地区内唯一の教育機関である小中一貫校の「お台場学園」の中学生を中心とした「お台場学園防災Jr（ジュニア）チーム」（以下「防災ジュニアチーム」という。）が組織された。防災ジュニアチームは17年以上活動を継続しており、段階的な総合防災教育や、消防署・消防団・地域住民・区と連携した防災訓練が「当たり前」のこととして根付いている。

#### 【活動内容】

##### 1 段階的な総合防災教育

小学校入学から中学校卒業までの9年間にわたり、発達段階に応じた防災教育を行っている。小学生は、まず自分の身を守るからことから学び、次第に初期消火訓練や応急救護訓練へと段階的に取り組む。中学生になると、全員が防災ジュニアチームの一員となり、「お台場の街は自分たちで守る」を合言葉に、①消火班、②救護班、③設営・搬送・誘導班、④食糧班に分かれて防災訓練を行う。

防災訓練は消防職員・消防団員が指導者となり、年に2回実施している。中学1年生は、D級ポンプ

の取扱い訓練を、2年生は普通救命講習を受講した上で、応急救護訓練を、3年生は炊き出し訓練を行うなど、実際の災害を意識した訓練に取り組み、地域の防災の担い手になることを到達目標としている。



炊き出し訓練

##### 2 地域との連携

防災ジュニアチームは、地域の自主防災組織である「お台場地区防災協議会」の連携組織として位置付けられている。2か月に1回の頻度で開催される防災協議会に学校関係者が参加し、地域住民の意見を防災訓練に反映させるなど、地域との連携を大切にしている。

##### 3 港区総合防災訓練

毎年1,000名ほどが参加する港区総合防災訓練（台場会場）において、防災ジュニアチームは、初期消火、応急救護訓練について、地域住民に対する指導を担当する。さらに、消防職員・消防団員・地域住民と連携し、総合訓練のデモンストレーションを行うなど、防災教育の成果を披露する一大イベントとして、台場地区の伝統行事となっている。



D級ポンプ取扱い訓練

# 実戦的な訓練と地域連携で備える防災力

## ～消防団のノウハウを活かした自治会防災～

### 優良賞

### 今泉自治会（大田区）

#### 【経 緯】

今泉自治会は、近年、新築のマンションや戸建ての建築が進み、世帯数が増加傾向にある地域であり、現在、自治会内4,012世帯のうち約75%にあたる3,000世帯が自治会に加入している。自治会員に消防団員が多く在籍していることが特色であり、消防団の持つ知識、技術を積極的に取り入れることで消防団のノウハウを活かした自治会防災を構築している。

#### 【活動内容】

##### 1 リアルな想定の実戦的な防火防災訓練

災害時における実効性の高い対応力を養うため、自治会に在籍する消防団員の助言を受け、同時多発的に被災する首都直下地震を想定とした防火防災訓練に取り組んでいる。

平成30年から継続しているこの訓練は、一時集合場所を総合訓練会場とし、一時集合場所までの避難経路上に被災場所を想定したまちかど防災訓練会場を5箇所設定して実施している。

まちかど防災訓練会場では、消火訓練、救助訓練及び応急救護訓練を行った後、総合訓練会場までの避難訓練として負傷者の搬送訓練を実施している。

応援協定を締結している「総合福祉施設いずみえん」もまちかど防災訓練会場の一つであり、施設職員と連携して消火訓練や応急救護訓練を実施後、リヤカーを活用した避難行動要支援者の搬送訓練を実施している。

総合訓練会場では自治会指揮本部を設置し、トラ



リヤカーを活用した搬送訓練

ンシーバーやホワイトボードを活用して発災状況の情報収集、自治会員による災害対応の進捗管理等、自治会が組織的かつ主体的に災害対応ができるように訓練をしている。この他にも煙体験ハウスや通報訓練等の体験型訓練に加え、非常用トイレや充電ステーションの設営訓練等、近年の避難施設での課題に対応した訓練も取り入れている。

また、訓練会場を複数箇所にすることで、自治会員以外の住民の参加もしやすくなり、地域全体の防災力向上に繋がっている。

##### 2 消防団譲りの市民消火隊

昭和56年の発隊以降、在籍している消防団員の指導のもと、毎月第2日曜日にC級ポンプ、D級ポンプ、スタンドパイプの取扱い訓練を実施している。

現在2隊19名で構成されており、消防団の操法技術を取り入れた訓練により、迅速かつ統率の取れた活動技術を習得している。



市民消火隊の消火訓練

##### 3 「総合福祉施設いずみえん」との連携訓練

「総合福祉施設いずみえん」とは、平成16年に災害時応援協定を締結し、以降毎年、双方の訓練に参加して災害時に自治会員と施設職員が協力して活動できるよう連携訓練を実施している。令和6年に実施された「総合福祉施設いずみえん」の自衛消防訓練では水災害を想定し、施設に一時避難した住民の受入れ対応訓練や施設入居者が上階へ垂直避難する訓練を協働で実施した。



# 進化系防災訓練「防災コミュニティラボ」

～地域の人たちと進化する防災訓練～

## 優良賞

## 駒澤大学 内海麻利ゼミナール（世田谷区）

### 【経 緯】

まちづくりなどの調査研究をしている駒澤大学・内海麻利ゼミナールは、令和4年度に大学付近の世田谷区上馬地区でアンケートやヒアリング等の調査研究を実施した。その結果、高齢化等に伴う地域コミュニティの希薄化により防災意識や防災知識が低下しており、その状況が防災訓練に顕著に表れていることが明らかになった。

こうした課題を解決するためには人と人の絆を醸成するイベントを実施することが重要であると考え、学生が防災士の資格をとるなど防災の知識を習得しつつ、令和5、6年度には地域の防災訓練を区役所、町会、小学校、消防署、NPO、企業などと協力して企画・実施した。



企画会議

### 【活動内容】

令和4、5年度の調査研究では、5町会に対するヒアリングと町会アンケート（512回収）、駒大生アンケート（146回収）を実施し、地域コミュニティの希薄化と防災訓練への参加率が低いことが大きな課題として浮き彫りになった。

この課題解決策として令和5、6年度に駒澤大学生が防災訓練イベント「防災コミュニティラボ」を企画・実施した。

令和5年度は、参加率の向上を目的とし、防災訓練に楽しく参加でき、コミュニティを醸成する工夫を盛り込んだもので、みんなで力を合わせて競技する「①防災競技」と、防災食を共に理解するための「②非常

食試食会」、非常時に必要なものを工作する「③防災グッズ」、防災情報を展示しクイズ形式で学べる「④防災クイズ」などを企画した。

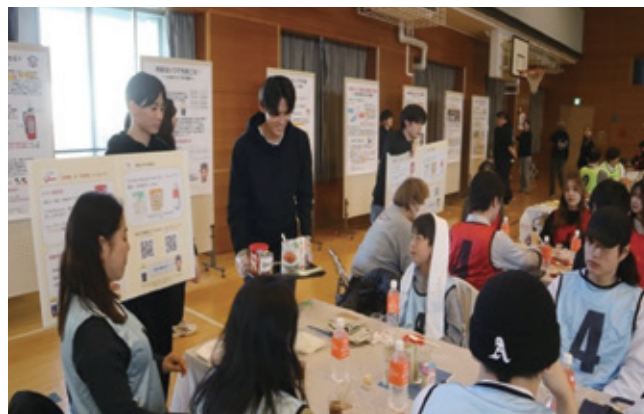
（参加者 令和5年12月10日 本イベント72名）

令和6年度は、上記の令和5年度のイベントの枠組み①②③④をそれぞれに進化させるとともに、若年層の参加が少なかったという課題を克服するため、小学校の協力で、授業としてデモイベントを実施させていただいた上で、本イベントに若年層の参加を増やす取り組みを行った。

（参加者 令和6年10月12日デモイベント 小学5年生90名と保護者等計7名、12月7日 本イベント57名）



デモイベント



本イベント

# 地域×学校×消防団

## ～若い世代が参加する防災訓練を目指して～

### 優良賞

### 小竹町会（練馬区）

#### 【経緯】

小竹町会は練馬区の東部に位置し、板橋区・豊島区に隣接している。昭和58年に地下鉄「小竹向原駅」が開通してからは、現在のような住宅街が形成され、年々世帯数も増加し、現在5,858世帯となり練馬消防署管内でもトップに入る規模となっており、普段から顔の見える関係を構築し、町内の安全・安心を確保するため、防火防災面に力を入れている。

#### 【活動内容】

##### 1 防災への取り組み

町会の年間行事として、春は『区立小竹小学校』で、秋は『区立旭丘中学校』で町会、学校、消防団、区役所及び消防署が連携し学校コミュニティを活用した防災訓練を実施している。これは、首都直下地震等の発生時には学校が避難場所となることから、学校に地域の方が集まることを子どもたちに体感的に理解してもらうことを一つの目的として、町会の方をはじめとした地域の方と小・中学生が顔を合わせ1,000名以上が参加する防災訓練を実施している。これらの訓練には、練馬消防団長も参加している。

また、時代に即した防災訓練を展開するために中学校での総合防災教育の一環として、Zoomを活用した防災講話を実施した後に、近隣の公園等を活用したまちかど防災訓練を実施する等、災害時の備えや避難方法を学習し、町会の方同士が顔を合わせ、自助・共助を学べる機会をつくり、防災活動への意識が高い。



Zoomを活用した防災講話

また、平成14年から実施している練馬区主催の『防災コンクール』（町会・自治会が参加する軽可搬ポンプ操法の訓練成果の発表及び技術交流を図るための大会）に、平成21年から参加しており、平成29年には12隊参加中、準優勝、令和5年には14隊参加中、第3位の成績を収めた。

##### 2 企業との連携

平成29年に町会内にある江古田斎場（練馬区小竹町1-61-1）と避難拠点、備蓄品の供給等の防災に関する災害時相互応援協定を締結し、震災時等の協力体制を構築している。

##### 3 小竹町会公式ガイド

町会が独自に作成した地図「こたけぐらし」（平成29年5,000部、令和2年4,000部）に、災害時の避難拠点や防災倉庫等を盛り込み、町内全世帯に配布し、自分たちのまちが保有する資器材を把握するなど防災意識の高揚に努めている。



町会作成の防災マップ

##### 4 小竹町会館

平成27年に『小竹町会館』を新築にしている。町会事務所と防災倉庫が併設されており、消防団の詰所としても利用されている。約一週間程度の水や食料品（米、クラッカー）の備蓄、簡易トイレなどを練馬区の予算で購入し、災害時には約100名程度の住民が一時避難できるよう整備するとともに、町会内外の方にイベントスペースとして貸し出しを行い周辺地域のコミュニケーションの場となり、「小竹町会館」をハブとして地域住民の方が訓練に参加するなど、防災拠点として活用されている。



# 新たな地域防災力の担い手を育成するために！

## ～地域と行政を繋ぐ取り組み～

### 優良賞

### 新田地区少年団体協議会（足立区）

#### 【経 緯】

荒川と隅田川に挟まれた新田地区は、荒川隅田川決壊時等、水災時の被害想定は、甚大なものとなり、震災時においても、液状化や橋の倒壊による孤立化の危険性があり、大変危険度の高い地域である。新田地区において、自然災害発生時に人的・物的被害を低減させるためには、地域住民一人ひとりの防災意識の高揚と、防災行動力の向上が必要不可欠である。このような地域特性の新田地区において、地域の防災力の担い手を育成し、青少年の健全な育成と地域社会の発展及び地域の力と行政を繋ぐため、地元の子供たちを中心とした活動のひとつとして、夏の期間において新田学園（足立区にある小中一貫教育校で生徒数約1,650人）を活用し、子供たちの宿泊体験のひとつの行事として防災体験学習を実施している。

#### 【活動内容】

- 1 平成9年から毎年1回、約27年間にわたり、防災体験学習を継続して実施し、令和6年度は参加人数約200名に対して防災体験を実施した。
- 2 児童、保護者、教職員、PTA、地元町会が訓練参加者や宿泊体験の運営として参加し、消防団及び消防署と連携した初期消火訓練や応急救護訓練、さらに、区役所と連携し起震車を活用した地震体験や煙体験ハウスを活用した防災体験を実施している。
- 3 教職員、保護者、PTA、地元町会、消防団、消防署及び足立区が連携し、児童に対する総合防災教育を推進している。

- 4 主に中学生・高校生で構成されたジュニアリーダー（当該団体に所属している児童が、中学生になると、本人に意思を確認し、足立区が主催するジュニアリーダー研修会に参加し認定される。）により、宿泊のサポートや運営、訓練指導を実施している。宿泊訓練では、各班編成のもと、ジュニアリーダーがそれぞれの班に1名配置され、指導やサポートにあたっている。令和6年度については、約40人のジュニアリーダーが訓練に参加し、各種指導やサポートにあたり活動した。
- 5 本訓練は、児童を迎えに来た多くの保護者や兄弟についても参加することができる。小さい子供のために消防車の見学や子供用防火衣の装着体験なども同時に行い、本行事に参加しない兄弟等に対しても、楽しく防災体験ができるように工夫している。
- 6 地元町会の実施している防災訓練に参加できない若い保護者等が、本訓練により初期消火訓練や応急救護、地震体験等を体験することができ、地域防災力の向上にも貢献している。
- 7 近年、新田地区には、大規模マンションが多数建築されているが、そこに入居する若い世代も本訓練に参加しており、近年町会加入者が減少する中で、地域の防災力向上の担い手の育成に寄与している。



バケツリレーによる初期消火訓練

# 葛飾区は僕たち・私たちが守る、教えるのは6年生！

～教えることで学ぶ総合防災教育への新たな取り組み～

## 優良賞

## 葛飾区立小松南小学校（葛飾区）

### 【経緯】

葛飾区立小松南小学校のある新小岩地域は、再開発が始まり発展が著しい地域特性とは別に、繁華街と住宅が混在密集しており、火災発生時の延焼拡大や地震発生時の建物倒壊の危険性が高い地域である。このことから、特にこの地域は自治会、行政、学校が連携して行う総合防災教育に力を入れており、未来の地域防災コミュニティを担っていく児童達に対し、防火防災意識及び防火防災行動力の普及向上を図っていくことが地域の課題である。

12月に「小松南防災フェスタ2024」と銘打ち、同小学校の校庭・プール・校舎を活用して小学校、四つの自治町会、葛飾区役所、本田消防団及び本田消防署が連携し、児童の保護者や地域住民も招いて児童自らが行う防災訓練が行われた。6年生が11月から自分達で防災訓練の内容を考え、火災や過去の地震からの教訓等を学習し、手作りによる防災教材を準備する等防災行動の第一歩を踏み出し、当日は、最初に6年生が消防団員及び消防職員から指導を受け、その後、6年生が下級生に訓練指導を行うという新たな取り組みとなっている。この取り組みにより、児童の自主性を育み、合わせて教育効果を大きく高められた。

### 【活動内容】

#### 1 初期消火訓練

6年生が消火器の取り扱いを消防団員及び消防職員から教わり、下級生に指導するとともに保護者に披露した。



6年生による初期消火訓練指導

#### 2 応急救護訓練

6年生がAEDの取り扱い、三角巾での創傷処置及び応急担架の作成などを消防団員及び消防職員から教わり、受け身ではなく積極的に学習し、下級生に指導した。



6年生による応急救護訓練指導

#### 3 放水訓練

6年生が区職員に消火体験車両を活用して放水要領を教わり、下級生に指導した。

#### 4 救命ボート体験

自治町会所有の救命ボートの乗船、オール漕ぎを体験することで水災による浸水の怖さを知りボートの活用方法について学んだ。また、地域の住民とのコミュニケーションを図る機会ともなっている。

#### 5 葛飾区の災害史

自分達の住む新小岩地区を中心に過去の災害を調べ、テレビ画面への資料投影や画用紙等で作成した資料を展示し、下級生と保護者に発表した。

#### 6 避難訓練と避難所についての紹介

災害時の避難方法と避難所について調べたことを発表した。段ボールベッド、非常食及び防災バッグについても学習したことを、各ブースで発表した。

#### 7 その他

着衣泳、手作り防災グッズ、土のう、災害クイズ、紙芝居等を学習し発表した。



# 自主防災組織連絡協議会の先駆け！ 22年にわたる歩み

## 優良賞

## 国立市自主防災組織連絡協議会（国立市）

### 【経 緯】

昭和56年5月に国立市初となる自主防災組織が誕生し、平成13年までに17の自主防災組織が結成された。それぞれの組織の長は、大規模災害時における自助、共助体制の更なる強化のため、各組織間の技能レベルの標準化、情報交換、地域の防災リーダーを担う人材発掘及び育成等の観点から、連携体制を構築する必要性を強く認識していた。そこで、市役所を含めた相互の折衝及び協議を重ね、平成14年6月に全ての自主防災組織が参加する「国立市自主防災組織連絡会」が発足した。その後、「国立市自主防災組織連絡協議会」と名称変更され、新たな自主防災組織結成にも貢献し、現在は加盟数も27組織に拡大され、地域の自助、共助体制の強化に寄与している。

### 【活動内容】

#### 1 自主防災組織の知識及び技術の向上

自主防災組織結成後は国立市よりD級可搬ポンプが配置され、東日本大震災後は更にスタンドパイプが配置されるなどハード面の整備が図られてきたところであるが、協議会へ移行した後は、合同の可搬ポンプ運用訓練による消火要領の習熟、地域の防災リーダー育成に資する研修会や地域特性を踏まえた図上訓練等、ソフト面の強化も図っている。

また、国立市総合防災訓練や国立市消防出初式をはじめとした各種訓練やイベントにも多数参加し、当協議会の地域への更なる浸透及び発展についても尽力している。



楽しみながら防災を学ぶ防災ワールドカップ

#### 2 避難所運営への参画と避難所運営ガイドライン等の策定に関与

市役所が避難所運営ガイドラインを作成するにあたり、当協議会は、当初から市役所がオブザーバーとして参画し、地域住民の意見を反映させたガイドラインの策定を行った。また、ガイドラインに基づき小・中学校別に作成する避難所運営マニュアル検討委員会にも各自主防災組織が主体的に関与し、自治会長、学校関係者、関係団体等の意見が盛り込まれた避難所運営マニュアルが作成されるなど、有事の際に住民の安全・安心を優先とした実効性の高い計画策定に大きく貢献した。

#### 3 防災訓練参加者の掘り起こしの取組

全自治会を対象に、市民が楽しみながら防災体験が行える工夫や学校コミュニティの効果的な活用をねらい、小・中学校各校の学校公開日に避難所運営訓練実施日を調整し、子供から親世代、更には地域住民を巻き込んだ防災訓練を展開し、地域に暮らす幅広い世代の防災意識の高揚、地域の連携力及び防災力の向上に貢献している。令和6年度の本協議会の担当区域で実施された防災訓練回数は41回、参加者数は4,511人であった。



実戦に即した粉末消火器の放射体験

# 地域連携で防災の未来を描く！

～西府の住民による、西府の住民のための、西府の防火防災訓練～

## 優良賞

## 西府文化センター圏域自主防災連絡会（府中市）

### 【経 緯】

西府文化センター圏域自主防災連絡会（以下「自主防災連絡会」という。）では、「若い世代の防災意識の啓発や防災訓練への参加」という地域の課題に対し、市民が農業とのふれあいを活かした企画により、親子が楽しみながら防災意識を高めるイベントを実施している。また、親子だけでなく、西府圏域の町会自治会、学校、事業所等の多様な主体が参加する、公助に頼らない、西府圏域の『人』と『モノ（防災資機材）』を駆使した実践的な発災型震災訓練の実施など、訓練形態の発展とともに、自らの活動をモデルケースとして他の文化センター圏域の自主防災連絡会等に広める活動にも注力し、府中市民26万人の地域防災力の向上に大きく貢献している。

### 【活動内容】

#### 1 若い世代に対する防災の育成と発展

自主防災連絡会では、地域団体の代表者等で構成する会員のほか、府中市役所、府中市消防団、府中消防署も参画し、圏域内の防災対策の推進に取り組んでいる。「若い世代の防災意識の啓発や防災訓練への参加」という地域の課題では、夏祭りや防火防災訓練を併せた「西文まつり」に約11,000名が参加したほか、西府町農業公園が持つ防災やコミュニティなどの多面的な役割に着目し、市民と農業のふれあいの機会を利用した防災イベント『作って・食べて・学ぼうさい』では約180名が参加した。本取組を約270名が参加する文化センター圏域自主防災連絡会



地域特性を活かした防災イベント

連携事業「防災シンポジウム」で発表するなど、地域の特色を最大限に活かしながら若い世代に対する防災の育成と発展に繋げている。

#### 2 新しい防火防災訓練への挑戦と地域貢献

防火防災訓練の形骸化が懸念されるため、新しい実施形態に挑戦し、震災時に公助が追いつかないという前提の下、自治会、学校、事業所等の多様な主体が連携して、発災から応急救護～救出救助～初期消火までの一連の流れで行う実践的な発災型震災訓練を実施した。また、府中市役所と府中消防署の協力のもと、本訓練で作成した実施要領や動画等を「西府自主防災モデル」に位置づけ、他圏域の自主防災連絡会等で紹介するなど、府中市全体の地域防災力の向上に大きく貢献している。



公助に頼らない発災型の防災訓練

#### 3 多摩川氾濫時における浸水対策等の強化

地域の一部が多摩川氾濫時の浸水想定区域であるため、自主防災連絡会活動促進助成金にて止水板を購入し、約1,000人が参加した「府中市総合防災訓練」のほか、多摩川氾濫時の避難等を行う「西府総合防災訓練」などの機会を捉えて、止水板の展示・披露や家庭でできる水防工法の紹介を行っている。また、府中市の活動促進助成金を活用し、令和7年度に7つの防災備蓄倉庫を拡充整備していくこととしており、西府圏域における浸水等の災害に備え、自主防災体制の強化に取り組んでいる。



# 地域の防火防災力向上は地元のチカラで

## ～誰もが安心して訪れることができる深大寺地域を目指して～

### 優良賞

### 深大寺自衛消防隊（調布市）

#### 【経緯】

深大寺自衛消防隊が活動する深大寺地域は、古刹「深大寺」を擁する東京でも有名な景勝地であり、その参道には18軒のそば屋が軒を連ねるそば処としても有名で、年間70万人を超える観光客が訪れる観光地となっている。

深大寺自衛消防隊は、そんな深大寺地域のそば店等（工芸、物販、園芸、駐車場）で防火管理者の資格を有する有志が中心となって、深大寺周辺の防火体制を強化することを目的とし、昭和45年12月に結成され、以来55年の長きにわたり深大寺地域の防火、防災に尽力している。

また、隊員には地元市消防団のOBが多数在籍し、活動の中核を担っている。

#### 【活動内容】

##### 1 自衛消防隊としての活動資器材の充実強化

- (1) 火災発生時における初動対応力の強化を図るため自前の可搬ポンプ（B級ポンプ1台、D級ポンプ1台）を格納庫に配備し、毎月1回資器材の点検日を指定して欠かさずに点検整備を実施して有事に備えている。
- (2) 火災対応時の安全確保と自衛消防隊員の結束を図るため活動隊員の防火服を購入して格納庫に配備しており、令和7年度中には防火服を新調する予定であり、活動資器材の充実強化にも力を入れている。
- (3) 携帯電話が普及した現代においても、近隣の隊員が早期に参集できるよう、格納庫敷地内に設置された半鐘を活用し、各種消防訓練や火災を覚知したときにはその半鐘を鳴らして地域の住民に知らせている。

##### 2 各種消防訓練の実施及び消防演習への参加

毎年11月に各組合員が勤めているそば店などを火元建物と想定し、夜間に地元調布市消防団及び調布消防署と連携した合同訓練を実施し、火災への実践的な初動対応力の向上と消防関係団体との連携強化を図っている。深大寺地域で実際に

発生した建物火災では、可搬ポンプを搬送し、消防署隊とも連携して活動支援に当たるなど、日頃の消防訓練が実際の火災現場でも活かされており、深大寺地域の安全、安心に大きく寄与している。

また、毎年1月の文化財防火デーには、深大寺で実施している消防演習に深大寺自衛消防隊として参加して深大寺、地元市消防団及び消防署隊との連携強化を図るとともに、広く市民に対して文化財の重要性を訴える広報活動にも寄与している。

##### 3 深大寺初詣等における消防署隊等との連携した警戒活動の実施

深大寺境内で毎年実施される1月の初詣、2月の節分、3月のだるま市では、自前の可搬ポンプを境内の池に配備して火災発生時の初動体制の強化を図っている。

また、各行事の実施期間中は参拝者への防火防災対策の普及啓発に努めるなど、警戒に当たる地元市消防団や消防署隊などとも協力して参拝者の安全確保にも寄与している。

##### 4 継続した応急救護訓練の実施

9月には、深大寺自衛消防隊が中心となって自身の所属する店舗従業員を巻き込んでAEDの取扱いや三角巾での包帯法などの応急救護訓練を実施しており、隊員個々の応急救護技能の向上を図るとともに近隣の店舗と深大寺地域の救護体制の強化にも貢献している。

##### 5 火災予防広報への協力

深大寺自衛消防隊の隊員が所属する各事業所では、火災予防運動などには火災予防のポスター掲示やちらし配架、店内ディスプレイでの動画配信などで火災予防広報に協力し、地域の火災予防にも大きく寄与している。



文化財防火デー消防演習①



文化財防火デー消防演習②

# 要配慮者への配慮を込めた地域防災力の向上策

## 優良賞

## 前沢四丁目自治会自主防災会（東久留米市）

### 【経緯】

平成元年4月の自治会定期総会において、地域の安全・安心を確保するため、地域の防災力と防災意識の高揚を図ることを目標として、自治会役員などで自主防災組織を設立した。

### 【活動内容】

#### 1 実践的な訓練の実施

- (1) 毎年秋に防火防災訓練を実施、初期消火訓練、応急救護訓練、保有資器材の取扱い訓練、炊き出し訓練等を行い、地域住民による共助の力を向上させている。また、昨年度は使用期限の近い粉末消火器を実際に使用し、噴射状況等を確認することにより、実災害で使用するイメージができた。
- (2) 毎年、東久留米市総合防災訓練へ参加し、より実践的な訓練を行うことにより初期消火能力の向上を図っている。また、昨年度からまちかど防災



防災訓練（応急救護）



東久留米市総合防災訓練参加

訓練を実施し、自治会保有のスタンドパイプによる放水訓練を実施している。

- (3) 平成27年2月、近隣自治会と住宅管理組合で地域連絡会を結成し、結成以降毎年、市内の中学校において避難所運営訓練を実施してきた（地域連絡会は令和5年に休会）。

#### 2 防災資器材等の整備

- (1) 平成23年に自治会員に緊急用のホイッスル配布
- (2) 平成26年に防災マップを作成し自治会員に配布、令和元年及び令和5年に更新
- (3) 平成27年に地震による火災に備えてスタンドパイプを購入
- (4) 令和5年に地震による停電に備えて発動発電機及びポータブル電源を購入

#### 3 会議等の開催

定期的に総会を開催し、地域防災力の向上及び要配慮者支援対策を検討している。また、防災訓練計画を事業計画に明確にして、早い段階から自治会員に対し、防災訓練参加を促している。

#### 4 要配慮者支援対策

- (1) 災害時の要配慮者リストを作成し、避難誘導、救出救助時の活用資料としている。
- (2) 平成30年に要配慮者に対し、災害時の安否確認のため黄色いハンカチを配布し、年1回の防火防災訓練時に「安否確認訓練」を実施している。
- (3) 要配慮者世帯に対し、回覧板等で積極的に「住まいの防火防災診断」の実施を促すとともに、消防署に対し自治会長より要配慮者世帯等の情報提供を行い、住宅における危険個所の指導、改善を実施している。

#### 5 その他の活動

自治会誌「自治会だより」を発行、地域に情報発信し、防災知識の普及啓発を行っている。



# 防災訓練を区や地域の架け橋のアイテムに！

## 選考委員長特別賞

特定非営利活動法人アディアババ・エチオピア協会（葛飾区）

### 【経 緯】

葛飾区内の在留外国人の割合は全国平均の約2倍であり、本田消防署管内には都内に在住しているエチオピア人の半数が居住するとされ、「リトル・エチオピア」とも呼ばれるコミュニティを形成している。「リトル・エチオピア」を中心に在日エチオピア人のネットワークづくりや人権・生活・就労支援、文化交流事業を中心に行っているのが特定非営利活動法人アディアババ・エチオピア協会であり、来日するまでに体験したことがなかった地震への不安や、ゲリラ豪雨などによる水害に対する経験が皆無である在日エチオピア人を対象とした防災訓練を実施したいとの要望が消防署にあったことから地域への防火防災活動が始まった。

### 【活動内容】

言語の壁により、救急車を要請する際には近隣の日本人に依頼をすることに時間を要していたことや、火災が発生した際に使用する消火器の取り扱い方法が不明であったことなど、防災に関する不安解消のために実施した防災訓練後の防災対策効果は大きく、以後、複数の日本語学校から訓練依頼が殺到するなど、管内の在留外国人の防災への関心の礎となった。また、特定非営利活動法人アディアババ・エチオピア協会は1度きりで防災訓練を終えることなく、その後も町会と連携した防災訓練にも積極的に参加するなど、高齢者の多い地域特性に在日エチオピア人の若い力を投入し、地域の防災力の向上に多大な貢献を果たしている。



119番通報訓練



応急救護訓練



災害時支援ボランティアからの煙体験の説明



消防団員からの消火器取扱説明

# 女性の力で発信！ 熱意と努力で地域の防災力向上を

## 選考委員長特別賞

## 青梅女性防火防災の会（青梅市）

### 【経 緯】

平成17年4月に3つの支部、会員66名により「青梅女性防火防災の会」（以下「女性防」という。）として活動を開始した。

今では市内に11の支部・会員260名を有する大きな組織となり、安全安心な町づくりを目指し、地域の防災リーダーとして積極的な防火防災の普及・啓発活動を展開している。

当会では年度ごとにテーマを設定し、テーマに沿った防災講習会などを実施している。テーマについて、表面的な理解に終わらせずに理解を深めるとともに、その活動を通して得た防災知識を地域の人々にも普及させるため、地域の防災訓練やお祭り等の機会を捉え、団体自ら啓発活動を行っている。

### 【活動内容】

#### 1 地域の防災力向上のための防災リーダーの育成

##### (1) 初期消火技術を広めて地域を守る

令和5年度より秋・春の火災予防運動期間などの機会に当会会員が地域住民に対して初期消火訓練の指導を行っている。令和5年度からの2年間で各支部68名の会員が、地域のお祭りの来場者や市民センターへサークル活動に訪れた方など、地域住民251名に対して模擬消火器を使用した初期消火訓練を行った。



火災予防運動期間中の初期消火訓練指導

##### (2) 地震時に直面するトイレ問題について地域に普及

令和5年度の総会で外部から講師を招き、災害時のトイレに関する講習を受講し、災害時の大きな課題として会員の間で強く認識された。令和6年元日に発生した能登半島地震では災害時のトイ

レに関する課題が大きく取り上げられたこともあり、更なる関心の高まりがあったことから、令和6年2月には各支部から75名が集まり、災害時のトイレについての勉強会を開き、震災時に発生する排水設備の破損や下水道の使用制限、段ボールを活用した非常用トイレの作成方法や凝固剤の使い方などを学び、実際に水や味噌を使った凝固実験まで行った。この勉強会の事を耳にした自治会や自主防災組織より、地区の防災訓練で災害時のトイレに関する広報や展示をしてほしいとの要望を受け、多くの支部で実施している。さらに、地域住民への啓発を強化するため、市民センターのトイレ内に災害時のトイレに関するポスターを掲示するなど、積極的な取組みに繋がった。



お祭り会場での非常用トイレ広報ブース

#### 2 ゲームを活用した避難所運営図上訓練の実施

青梅市の多くの地区の防災訓練で避難所運営訓練を行っているが、訓練での女性防の役割は受付や炊き出しなど避難所運営の一部であり、全体の運営方法や問題点を知りたいという会員の声が多く挙がっていた。そのため令和6年度のテーマを避難所運営とし、総会では外部講師を招き、92名の会員が避難所運営の基礎を学んだ。また、令和7年2月の防災講習会では各支部から66名の会員が参加し、青梅市防災課の講師による青梅市の実態に即した避難所運営について学ぶとともに、支部ごとにチーム分けし、ゲームを活用した避難所運営図上訓練を実施した。ここでは、避難所運営の難しさや発生し得る問題点の把握、そして災害に備えた事前準備の大切さなどを学んだ。避難所運営については引き続き学んでいき、各地区の自主防災組織にフィードバックしていくことで、各地区の防災力を向上させるとともに、今後も女性防として自助・共助の一翼を担えるよう取り組んでいく。



# かぐてんたいさく 家具転対策

家具類の転倒・落下・移動防止対策

固定していない家具や家電製品は地震が発生した際にけがや火災、避難の妨げとなる可能性があります。特に地震時のけがは、原因の約30%から50%が家具類の転倒・落下・移動によるものです。家具転対策で災害に強い部屋をつくりましょう！

## 家具転対策をしていないと起こる3つの危険

けが



火災



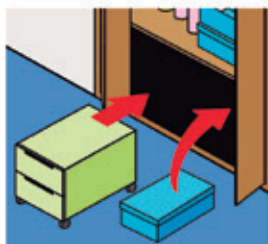
避難障害



## 家具転対策って何をすればいいの？

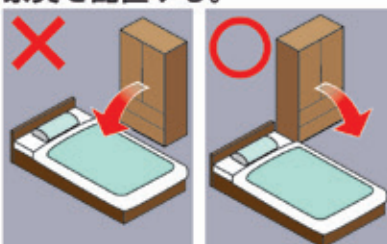
### 集中収納

クローゼットなどに物を収納し  
生活空間の家具を減らす。



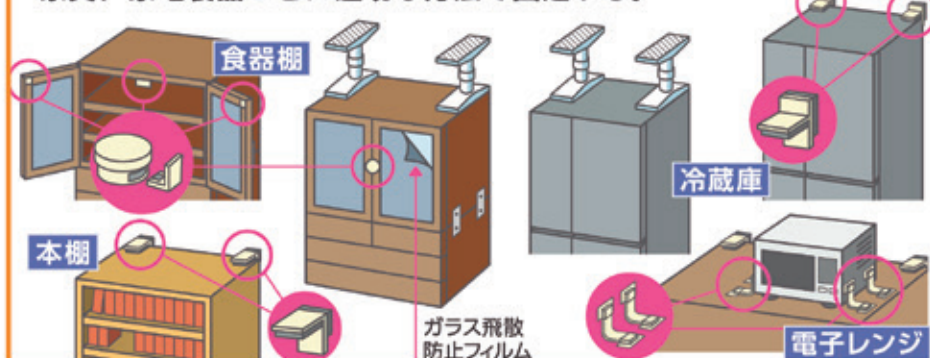
### レイアウトの工夫

地震時に避難の妨げやけがの  
原因とならない位置・向きに  
家具を配置する。



### 対策器具の設置

家具、家電製品ごとに適切な方法で固定する。



かぐてんたいさく

更に詳しいやり方  
東京消防庁 HP



### 感震ブレーカー

電気を自動的に遮断  
して通電火災を防ぐ  
ことができます。  
家具転対策プラスで  
災害に強い住まいを。



担当：東京消防庁 防災部 震災対策課 03-3212-2111（内線 3968）

※補助金、助成金の内容は区市役所や町村役場にお問い合わせください。

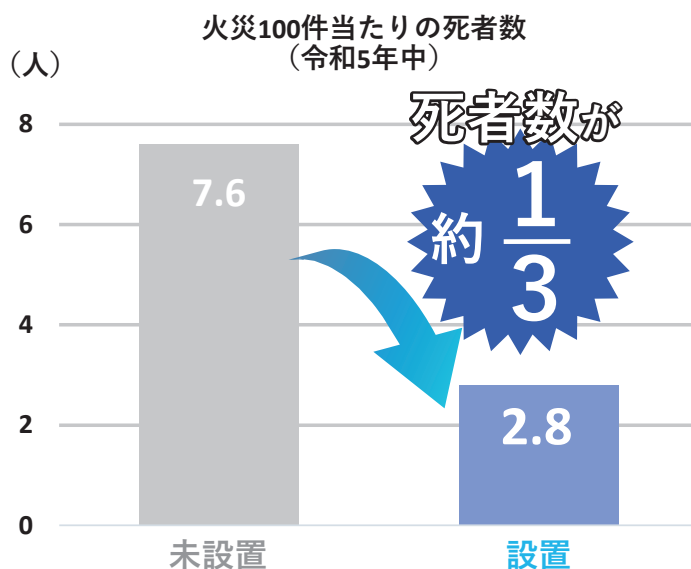
リサイクル適性A  
この印刷物は、再生紙の紙へ  
リサイクルできます。

# 10年交換！ 住宅用火災警報器



## 効果

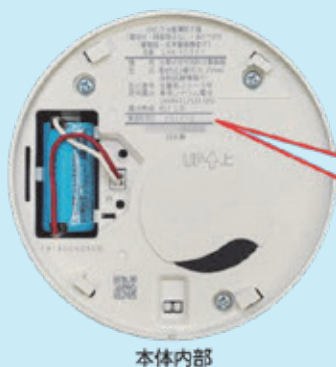
火災を知らせる警報器が  
設置されている場合は、  
**死者数**が**約3分の1**  
に抑えられています。



## 交換

設置後**10年**を目安に**交換**しましょう！

故障や電池切れでは火災を感知しません。



本体内部

ふたを外すと  
製造年月日を確認できます。

製造年月日 13 10 15

※2013年10月15日(製造)と表記されています。

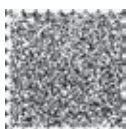
わが家は設置から、  
何年経ったかな？



## 点検

少なくとも**半年に1回**は点検しましょう！

正常な場合は、正常を知らせる  
警報音が流れます。  
音が鳴らない場合は、電池切れ  
や故障の可能性があります。



家電量販店、ホームセンター、地域の電器店

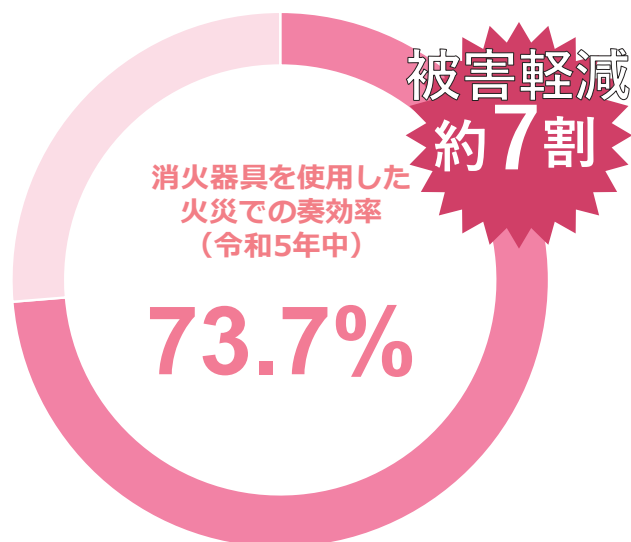


# 持っていますか？ マイ消火器



## 効果

万が一、火災が発生しても、  
消火器具を使用した場合は、  
**約7割**が**被害軽減**  
につながっています。



※『令和6年版火災の実態』より引用

## 設置

### ご自宅に備えましょう！

火災はいつ発生するか分かりません。



※左から消火器、住宅用消火器、エアゾール式簡易消火具

### 備えるメリット

- ①さまざまな火災に対応！  
電気・油火災にも効果的
- ②早い初期消火が可能！  
持ち運び◎、使い方簡単

自分の家は  
自分で守る！



## 使用方法



## 処分方法

消火器等を廃棄する場合は、消火器リサイクル推進センター又は自治体にお問合せください。

消火器リサイクル推進センター  
TEL 03-5829-6773



防火設備取扱店などで購入できます。

# 行ってみよう！ 博物館

## 博物館・防災館の運営

FIRE MUSEUM

消防防災資料センター

### 消防博物館

● 問合せ先 TEL.03-3353-9119 FAX.03-6634-5563

消防博物館

検 索






### 消防の歴史と進歩を一堂に集めて

**場 所** 〒160-0004 東京都新宿区四谷3-10

**交 通** 東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」から2番出口すぐ  
JR中央線「信濃町駅」・「四ツ谷駅」から徒歩12分  
都営新宿線「曙橋駅」から徒歩7分

**開館時間** 午前9時30分～午後5時

**休 館 日** 毎週月曜日(国民の祝日にあたる場合は直後の平日)  
年末年始(12月29日～1月3日)・館内整備日

**入 館 料** 無料





IKEBUKURO BOSAI-KAN

池袋都民防災教育センター

### 池袋防災館

● 問合せ先 TEL.03-3590-6565 FAX.03-6634-5565

池袋防災館

検 索






### 都心で気軽に防災体験

**場 所** 〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-37-8  
池袋消防署4階

**交 通** 「池袋駅」(南口・西口・メトロポリタン口)から徒歩5分

**開館時間** 午前9時～午後5時(毎週金曜日は午後9時まで)

**休 館 日** 第1・第3火曜日及び第3火曜日の翌日  
(国民の祝日にあたる場合は直後の平日)  
年末年始(12月29日～1月3日)

**入 館 料** 無料







# 体験しよう！ 防災館

TACHIKAWA BOSAI-KAN

立川都民防災教育センター

● 問合せ先 TEL.042-521-1119 FAX.03-6634-5566

## 立川防災館

立川防災館

検索



### 楽しみながら 防災体験



場 所 〒190-0015 東京都立川市泉町1156-1  
交 通 JR「立川駅」北口からバスで「立川消防署」下車  
多摩都市モノレール「高松駅」から徒歩15分

開館時間 午前9時～午後5時

休 館 日 毎週木曜日・第3金曜日(国民の祝日にあたる場合は直後の平日)  
年末年始(12月29日～1月3日)

入 館 料 無料

HONJO BOSAI-KAN

本所都民防災教育センター

● 問合せ先 TEL.03-3621-0119 FAX.03-6634-5564

## 本所防災館

本所防災館

検索



### 見て、触れて… いのちを守る体験学習



場 所 〒130-0003 東京都墨田区横川4-6-6  
交 通 JR総武線「錦糸町駅」北口から徒歩10分  
東京メトロ半蔵門線「錦糸町駅」4番出口から徒歩10分  
東京メトロ半蔵門線・東武スカイツリーライン・京成押上線・都営浅草線  
「押上駅」B1・B2出口から徒歩10分

開館時間 午前9時～午後5時  
休 館 日 毎週水曜日・第3木曜日(国民の祝日にあたる場合は直後の平日)  
年末年始(12月29日～1月3日)

入 館 料 無料

※開館時間など変更する場合がございますので、ホームページをご確認の上で来館ください。



火災や災害、ケガのときに役立つ情報を  
わかりやすくご紹介!  
毎日の安心づくりに役立つ一冊!



火災予防のふくすけ

最近の火災の傾向と対策、  
消防法令等の改正内容がわかる!

災害に備え、企業や皆さんがすべき  
防災対策の実例をご紹介します!



防災のサイまる



救急のクック

医師による日常に役立つ救急の知識や  
バイスタンダーによる救命事例で  
「もしも」のときに必ず役立つ!

発行

4・8・10・2月(年4回)

お申込み方法

郵便局に備え付けの振込用紙に下記項目をご記入の上、年間定期購読料  
1,200円(税・送料込み、4回分)を入金してください。

口座番号	00130-2-554742
加入者名	公益財団法人東京防災救急協会
金額	1部300円(年4回 1,200円)
通信欄	SAFETY LIFE TOKYO 定期購読
ご依頼人欄	住所(送付先)・お名前・フリガナ・電話番号

※振込手数料はご負担ください。

お問合せ 東京防災救急協会 企画課 TEL: 03-3556-3703 mail: safety@tokyo-bousai.or.jp

Tシャツ(絵柄2種類)

TVアニメ  
&  
マンガ

初コラボ!

火喰鳥 × TOKYO FIREFIGHTER

その他、  
登場キャラクターの  
アクリルキーホルダーや  
手ぬぐいなども展開!

扇子

トートバッグ

今!! ハローキティ金平糖

なんてたって  
缶がかわいい



119 パーツのブロックでつくる  
知育にピッタリ! 消防ヘリ  
プロペラが回ったり、タイヤが動いたり  
仕掛けがいっぱい!!!

クッキーの  
絵柄2種類  
ハローキティクッキー

協会HP



会社や家族へのお土産にピッタリ 詳しくはこちら↑

お問合せ 東京防災救急協会 防災事業課 電話:03-3556-3704 メール:baiten@tokyo-bousai.or.jp

取扱店舗 消防博物館・池袋防災館・立川防災館・本所防災館・消防技術試験講習場の各売店